

事業名称	地域文化財の保全公開事業		
実行委員会	滋賀県ミュージアム活性化推進委員会		
中核館	地域文化財の保全公開事業		
	住所	〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678	
	TEL	0748-4-2424	FAX 0748-46-6140
	ホームページ	http://www.azuchi-museum.or.jp	
構成団体	滋賀県立琵琶湖博物館、長浜市立長浜城歴史博物館、愛荘町立歴史文化博物館、多賀町立博物館		
事業開始時点の課題分析	<p>博物館が所蔵する文化財は、台帳に登録され収蔵庫内で安定した環境で保管されているが、個人が所蔵する文化財は、台帳も無く、温湿度が不定な状況の中で保管されている事例が多い。また、個人が所蔵する文化財の多くは、たとえその文化財が地域や社会にとって重要な知見をもたらすものであっても、公開されないため内容が不明な場合が多いだけでなく、所蔵者の事情により文化財の劣化や棄損、散逸や売買の対象となる事例も生じている。</p> <p>個人所蔵の文化財を適切に保存し一般への公開を促すためには、専門の知識と技術を有する博物館が積極的に関与する必要がある。</p> <p>しかしながら、現状においては通常の博物館業務以外の業務を行うことは人的にも経費的にも実施しえない状況にある。個人が収集した文化財コレクションについて、その取得の経緯や採集地点、帰属年代や性格等を調査し、登録台帳と写真資料集を作成し、コレクションの中核となる文化財については、安土城考古博物館で展示し、次年度以降は連携館で巡回展示し、地域の公共施設等でも展示する。</p>		
事業目的	<p>個人が収集した文化財コレクションについて、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 取得経緯や採集地点、帰属年代や性格、考証などの調書を作成し、登録台帳と資料集を作成する。 ② 資料集を県内外の博物館や資料館、文化財調査機関、図書館等の公共施設に配布して公開する。 ③ 当該文化財を保全するための収納を行う。 ④ 安土城考古博物館、愛荘町立歴史文化博物館、琵琶湖博物館、大津市歴史博物館で巡回展示する。 ⑤ 当該コレクションの特徴と文化財の保護と活用の必要性を要約したリーフレットを多言語で作成する。 ⑥ 文化財を広く公開活用するために、地域の小規模施設や学校等でも展示できるように、資料の特徴や地域性、時代性をもととした資料群をパッケージ化する。 ⑦ 地域に点在する個人コレクションや文化財を同様の手法で順次公開すると同時に適切な保全を行い、連携館を増やすと同時にネットワークを構築する。 ⑧ これらの事業で得られた文化財の情報はHP等で順次公開する。 		

事業概要	<p>本年度事業では、個人が昭和初期から 20 年代に滋賀県内を中心に収集した縄文土器、飛鳥時代から室町時代の瓦、塑像、土器からなる考古資料約 400 点を対象とし、上記①②③までの作業を行い、④については本事業を主体的に実施する安土城考古博物館においてコレクションの中核となる資料を展示して情報公開の端緒とし、次年度以降⑤⑥⑦の事業を実施し、連携館で巡回展を実施する。</p> <p>現段階では次年度事業までに事業構築し、平成 32 年度以降は自主事業化を目標としている。</p>
実施項目 ・ 実施体系	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニユ어의促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
実施後の 成果・効果等	<p>対象とした資料の一部は学史的にも研究上でも重要な資料と認識されていたが、その全容や来歴は不明であったため、今回の事業で資料の全容と来歴が判明したことにより今後の瓦研究に貢献することができる。</p> <p>資料の台帳を作成し、かつ展示可能な状態で収納したことで、保全と公開活用の両者が可能となった。</p> <p>資料図録を広く配布したことにより、文化財に対する関心や保全の必要性を喚起するなどの役割を果たすことができた。</p> <p>次年度以降は、今回資料化した資料を積極的に展示公開していくとともに、個人等が所有する文化財コレクションを今年度と同様に資料化して保全し、公開していく予定であるが、本事業はそのモデルケースになると考えられる。</p>

【事業実績】

1. 資料の台帳作成、図化および写真による記録保存、保管箱に収納した。
2. 資料解説シート「水谷隆信収集資料の主な瓦」を作成した。
3. 資料概要リーフレット「水谷隆信収集資料の概要」を作成した。
4. 資料図録「水谷隆信収集資料図録」を作成した。
5. 滋賀県立安土城考古博物館の第 59 回企画展(会期:平成 31 年 2 月 8 日～4 月 7 日)で資料の一部を展示公開した。
6. 平成 31 年度に愛荘町立歴史文化博物館の企画展で今回対象とした資料を展示公開する。